

あいめーる

WINTER

愛隣館通信

令和 2 年 2 月 28 日発行 〒861-0551
 発行 熊本市山鹿市津留 2022
 社会福祉法人 愛隣園 TEL 0968-43-2771
 障害者支援施設 愛隣館 FAX 0968-43-2793
 発行責任者 三浦貴子 http://aileans.com
 編集 広報チーム E-mail
 キャリーピジョン ailinkan@magma.jp



写真：1900 年前から地域の守り神彦嶽宮にて（2020.1.1 当館より徒歩 5 分）

令和になって初めてのお正月を愛隣館で迎えられたことをうれしく思います。

一日（水）と二日（木）に彦嶽宮（下宮神社）へ初詣に行きました。愛隣館から北へ歩いて五分程の所にある彦嶽宮、お正月には多くの参拝客が来られます。今年は、午前と午後に分けて、例年より多くの利用者の方々も参拝してきました。

彦嶽宮へ向かう坂を上る時、凍えていた身体も次第に温まり、清々しい気持ちで参拝することが出来ました。

利用者・職員共に頑張って行き、「元気に過ごせますように」「病気になるませんように」と心の中でお願ひしました。

神社の方から甘酒やみかんをいただき、その後は、おみくじを引いた方、お守りを購入された方もいらっしやいました。

令和二年、新しい時代は始まったばかりです。皆様にとりまして、令和が良い年でありますように。

初詣に参加した石川さんは「目標なんです、子供が好きなので児童施設など子供たちと関わる福祉関係の仕事につく事が僕のこれからの目標です」。

池田（祐）さんは「今年、何事もなく健康でありますように。奮発して五十円のお費銭でお願いしました」と目標や願いごとをこっそり教えてくれました。



食生活課手作りおせち

入居者「初詣」

ケア課

富田 正美

感染症と人権の世紀



館長 三浦 貴子

二〇世紀の終わりに、「二十一世紀は、感染症と人権の世紀」という文字に触れました。心がざわつく感じと共に、その頃はまだ実感を伴わず記憶に残っています。

そして、二〇〇二年「SARS」の発生。アフリカでの「エボラ出血熱」の流行にも終焉はいつになるのか、救助にたずさわる医療等関係者の映像を、祈る気持ちで見つめるだけでした。一方で、世界の紛争は激化し、多くの難民を生みました。人権を侵害する事件は、国家レベルから個人まで無数に起きています。国内でも高齢者、障害者、子ども達が被害にあう、いつまでも胸に鉛がささるように残るニュースが、報道される毎日です。

「感染症と人権の世紀」という言葉の通りになってきました。

二〇二〇年二月の今、新型肺炎が脅威です。感染者と感染が疑われる人々の隔離をしなければ、どこまでも拡がる危機です。ひとりの権利は制限されますが、たくさんの生命にかかわる事態を受け入れなければならぬ時期だと思っています。

今は、重い障害と共に生きる利用者の方々に危険なインフルエンザシーズンでもあります。職員が一人でも罹患した場合、マニュアルに添って数日間、集合する日中活動の停止や、入居・通所の行き来を止める対応をします。十年ほど前から、施設にとっても冬場の緊張感が増しています。

新型肺炎は、もはや映像に見る距離感ではなくなりました。

情報を整理して、恐れずに予防を行い、何とか防がなければならないと感じています。

新しい仲間



デイケア利用
鈴木 薫

九月から愛隣館へ週に一回通わせていただいている鈴木薫と申します。

ものすごく人見知りで、初対面の人にはなかなか自分から話しかけたりすることが苦手なのですが、職員の方や、利用されているみなさんが明るくステキな笑顔で声をかけてくださるので、気持ちが和むことが出来て少しずつですがこの場所に慣れてきたかなと思っています。

また、イベントなど行事もたくさんあるみたいなので、楽しく楽しみです。

毎週水曜日、私のことを見かけられた時は、どうぞ話しかけていただければ嬉しいです。



入居者
石川 高憲

令和元年九月に愛隣館に入居した石川高憲三十三歳です。ここに来る前は、合志のグループホームで八年間過ごしていました。

僕は、人見知りの性格で自分から話し掛けるのは苦手ですが、話しかけてもらうと会話弾みますので何時でもウエルカムです。

不器用な僕ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

新人職員紹介



児童指導員
松本 薫

こんにちは。昨年十月から児童通所支援事業所スパームーンにて児童指導員としてお世話になっております松本薫です。

前職も児童発達支援センターで主に未就学児の療育をしていました。療育を通して沢山の成功体験を増やし、子どもさん達に自信をつけてもらえるよう、支援を行っていきたいと思います。

また愛隣館へ勤めて、以前より関心のあったアール・ブリュットにもスタッフとして参加させて頂き

ました。大変貴重な経験となり感謝しています。今後も至らぬ点は多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

サニーサイド秋まつり

十一月九日（土）入居者の野尻さん、吉里（京）さん、吉玉さん、職員二名でサニーサイド秋まつりへ行ってきました。参加された三名は愛隣館入所前に、サニーサイドで生活されていた方々で、里帰りでもありませんでした。



サニーサイド入所中の野尻さんのお兄様と記念撮影

会場では、ステーション・ベン、ト、雑貨・飲食店が集まる「ひだまりマルシェ」も開催され、たくさんの方で賑わっていました。みなさんお自当の軽食を食べて満面の笑顔でした。

また、サニーサイド「アトリエSUN」ではアール・ブリュット移動美術展も開催（11・9～11・14）中で（野尻さんのクーパー画も展示）、作品を鑑賞していると、顔馴染みの利用者や職員の方々が野尻さんの姿を見つけ、懐かしみながら声を掛けておられました。

お天気もよく、思い出に残る楽しい一日でした。

2019 女子ハンドボール 世界選手権大会観戦

昨年、十一月三十日（土）～十二月十五日（日）「パークドーム熊本」をメイン会場に県内五会場で、「2019女子ハンドボール世界選手権大会」が開催されました。

十一月三十日（土）に山鹿市総合体育館（メインアリーナ）にて館長をはじめ入居者六名、職員四名がドイツ対ブラジル戦を観戦に行きました。

会場は警備も厳重で、火薬の臭いを嗅ぎ分ける探知犬が入場検査時に、活躍していました。

館内は世界レベルのハンドボールの試合を生で観ようと異様な盛り上がりで、沢山の観客で埋め尽くされています。

参加された

井上貴文さんは、「オムロンの試合は見たことがあります。世界レベルの試合を目の前で観る事が出来て感動しました。皆さん、ブラジルを応援しましたが、僕はドイツを応援しました」と興奮気味に話してくれました。

女子ハンドボール世界選手権大会を観戦し、一生心に残る貴重な時間となりました。



探知犬と一緒に記念撮影

「くまもと障がい者芸術展」見学

デイケア 藤井 優子

昨年、十一月六日（火）から十日（日）にかけて、くまもと障がい者芸術展が県立美術館分館で開催されました。

作品展では、490点の作品が展示され、愛隣館からは、愛隣館（21点・デイケア（20点・愛隣倶楽部（2点合計43点の力作を出展しました。

デイケア利用の高根英子さんの陶芸作品「アカシア楽団」がハートウィーク賞を受賞。

この作品は、高根さんのお兄様が友人とバンドを組み町中を演奏していた時、小さいながらも一緒に踊った事を思い出して、それを



今年の干支であるネズミで表現されたそうです。楽器は、思うように作れなかったと言われていましたが、一つ一つ細部にまでこだわりが感じられる作品でした。

芸術の事は、さっぱり分かりませんが、今年も是非見学に行きたいと思いました。

『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアビジョンが担っています。

法人愛隣園クリスマスの集い

十二月二十四日(火)愛隣館食堂ホールにて法人クリスマスの集いが行われ、入居者の賑やかなキャンドルサービス、三浦一水理事長のお話してクリスマス集の集いが始まりました。

今年、恒例のハンドベル演奏、利用者・職員の出し物に加え、「障がいのある仲間たちの前で舞いダンスを踊るのが夢だった」という、下川龍次さん(愛隣館デイケアご利用者)と上村真弓さんによる、サンバとパソドブレ二種目の車いすダンスの披露がありました。パソドブレでは闘牛とフラメンコをイメージした衣装で登場。息の合った華麗なダンスにうっとりしました。



下川さんは二〇〇二年より車イスダンスに挑戦。練習を重ね全日本選手権大会をはじめ、各種大会で上位の成績を収められています。

青山ダンススクール(NPO法人日本車いすダンスポーツ連盟熊本支部)支部長の、青山照子オーナーもお見えになり花を添えられました。

また、菊鹿町在住のアダラーコリンズ慈観(じかん)様(NPO法人総合ケア教育研究会理事長、金

剛乗寺副住職)が、サンタクロースに扮して登場。キラキラの金髪とくるくるおひげがとってもステキ!優しい笑顔に癒されました。

慈観様は、その足で児童養護施設愛隣園を訪問。

子供たちは本物のサンタクロースと思い大興奮だったそうです。

最後は、サブライズゲストとしてNPO法人九州プロレス所属の阿蘇山選手が登場。前年十二月



に来館された際も大好評だった、「お姫様だっこ」で入居者やスタッフを軽々と持ち上げるパフォーマンスに会場は大盛り上がりでした。

特別ゲストの皆様のお陰で、ひと味違う素敵なクリスマススイブを過ごすことができました。ありがとうございました。

豆まき

二月三日(月)食堂にて入居者、職員、九州看護福祉大学の実習生三名に加え、ヨガ教室を終えられた西守先生も赤鬼に扮して飛び入り参加、賑やかに節分の豆まきを行いました。

今年、入居者の平野博秋さん、阿南志穂さん、築地新文字さん、職員の永田(美)さん、納富さん、

中田さん、松本誠さん、星子さん、が年男・年女(福の神)でした。

福の神が、マスに入った豆やピーナツ、甘納豆を、力強い太鼓の音に合わせて「鬼は外、福は内」の掛け声と共にまき、一年間の健康と幸福を皆で祈りました。



労働安全衛生委員会

安心して働ける環境をめざし次のような活動をしています。

十一月「ストレスチェック」…衛生管理者より講話、後日全スタッフを対象に調査を実施。十二月「感染症」…インフルエンザ等への対策を改めて確認、周知。一月「職場環境改善」…駐車場・道路・照明各所の再点検をしました。

訂正とお詫び

あいめーる秋号、4ページの令和元年度月見の宴入選作品内に掲載している短歌【月の部】一席・城北高等学校竹原校長賞受賞短歌「満面の笑みにあふる母と子の心の対話 月もほほえむ」を「満月の」と表記していました。正しくは「満面」です。訂正してお詫びします。